

令和4年7月20日
令和4年8月2日修正
令和4年9月19日修正
(公財)日本スケート連盟

2022/2023 ショートトラック国際競技会派遣選手選考基準

【決定の方法】

国際競技会への派遣選手選考は、以下の基準に基づき、強化部委員会が推薦し、選考委員会又は理事会で承認することによって決定する。

【派遣選手団の編成方針】

1. 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
2. 行動規範を遵守し、活力ある日本スケート連盟を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

【出場に関する制限】

1. 国際スケート連盟(ISU)によって以下の通り制限される。
 - ・ 各国際競技会への日本の出場可能人数
 - ・ ISUによる参加標準記録
 - ・ 世界ショートトラック選手権大会のリレー出場枠
2. 日本スケート連盟による派遣標準記録(後述)を設定し、条件を満たした選手を派遣対象とする。

【特記事項】

- ・ ISUの参加要項等に変更があった場合は、それに準じて選考方法等を再検討し変更する場合がある。
- ・ 個人種目へのエントリーは、対象競技会における各距離の成績に基づいて、上位から決定する。ただし、ワールドカップ大会については、本戦で同日に実施される距離のどちらに出場するかは、選手の適性を考慮して当該年度のJOCハイパフォーマンスディレクター、ショートトラック強化部長及び当該大会の日本代表選手団ヘッドコーチ(以下、この3名を「エントリー検討メンバー」という)の協議により、編成方針を踏まえた総合的な検討によって決定する。
- ・ チーム種目へのエントリーは、日本代表選手団ヘッドコーチを中心に、当該競技会に派遣されたコーチングスタッフによって検討し、エントリー検討メンバーの協議により、編成方針を踏まえた総合的な検討によって決定する。
- ・ 本選考基準において、エントリー検討メンバー内で意見の一致に至らなかった場合は、多数決の方法をもって決する。また、ここでの選考は、強化部委員会の出席者(選考の対象とされる選手と同所属や担当コーチなどといった関係者を除く)の3分の2以上の多数をもって変更することができる。
- ・ 代表選手の決定後、ケガや病気などによって大会への参加が困難だと判断された場合は、選考委員会又は理事会で補欠登録をされた選手と入れ替える場合がある。その場合、強化スタッフに登録されたスポーツドクターの診断・見解を参考に検討する。
- ・ 選考対象者が、新型コロナウイルス(COVID-19)による影響(感染や偽陽性判定、濃厚接触者認定、熱発による感染疑い、国際的な移動に伴う規制等による隔離や行動制限)により、本選考基準による適正な選考が著しく妨げられたと認められた場合は、強化部委員会の協議によって、下記選考基準の関連する

部分に変更される場合がある。

1. ワールドカップ第1戦～第2戦 及び 四大陸ショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

第1戦:カナダ(モントリオール)、2022年10月28～30日

第2戦:アメリカ(ソルトレークシティ)、2022年11月4～6日

四大陸ショートトラック選手権大会:アメリカ(ソルトレークシティ)、2022年11月10～12日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各5名(合計最大10名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

【選考基準】

対象競技会:

- ・第33回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2022年10月8～9日)

男女最大各5名の正選手及び最大各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。ただし、以下の(2)～(3)において選考される者より各距離の順位が上位であった者が派遣標準記録以内で滑走していなかった場合は、対象競技会終了から1週間以内に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。
- (2) 対象競技会において、各距離で第1位の者を選考する。次に、各距離で第2位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第3位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (3) 上記(1)の中から、(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各3名を補欠として選考する。
- (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・上記(1)～(2)で選考された選手が、FISU ワールドユニバーシティーゲームズへの参加資格を持ち、参加を希望した場合は、男女各上位1名を日本代表選手として内定する。ただし、FISU ワールドユニバーシティーゲームズへの参加を希望する場合は、第45回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会への参加はできない。

2. ワールドカップ第3戦～第4戦

【開催場所、期間】

第3戦:カザフスタン(アルマティ)、2022年12月9～11日

第4戦:カザフスタン(アルマティ)、2022年12月16～18日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各6名(合計最大12名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第33回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2022年10月8～9日)

男女最大各6名の正選手及び最大各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。ただし、以下の(2)～(3)において選考される者より各距離の順位が上位であった者が派遣標準記録以内で滑走していなかった場合は、対象競技会終了から1週間以内に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。
- (2) 対象競技会において、各距離で第1位の者を選考する。次に、各距離で第2位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第3位の者の中から対象競技会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (3) 上記(1)の中から、(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女最大各3名を補欠として選考する。
- (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 上記(1)～(2)で選考された選手が、世界ジュニアショートトラック選手権大会への参加資格を持ち、参加を希望した場合は、男女各上位1名を日本代表選手として内定する。ただし、世界ジュニアショートトラック選手権大会への参加を希望する場合は、第45回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会への参加はできない。

3. FISU ワールドユニバーシティーゲームズ(2023/レークプラシッド)

【開催場所、期間】

アメリカ(レークプラシッド)、2023年1月12～22日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女各5名(合計10名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000mリレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000mリレー(1)

男女混合:男女混合2000mリレー(1)

【選考基準】

対象選手は、現役大学生又は2022年1月1日以降に大学を卒業した者で、1998年1月1日から2005年12月31日の間に生まれた者とする。

対象競技会:

- ・第33回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2022年10月8～9日)
- ・ワールドユニバーシティーゲームズ代表選考競技会(山梨県甲府市、2022年10月29～30日)

男女各5名の正選手及び各3名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象選手の中で、ワールドカップ第1戦～第2戦の日本代表となった者(補欠は含まない)のうち、FISUワールドユニバーシティーゲームズへ参加を希望する場合は、男女各1名を日本代表選手として内定する。なお、当該選手はワールドユニバーシティーゲームズ代表選考競技会(以下「WUG選考会」という)への参加を免除する。
- (2) WUG選考会において、各距離で第1位の者を選考する。次に、各距離で第2位の者の中からWUG選考会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第3位の者の中からWUG選考会の500mにおけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (3) 上記(1)～(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女各3名を補欠として選考する。
- (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・FISU ワールドユニバーシティーゲームズ(2023/レークプラシッド)の日本代表になった選手は、第45回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会への参加はできない。

4. 世界ジュニアショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

ドイツ(ドレスデン)、2023年1月27～29日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各 4 名 (合計最大 8 名)

※ISU より、後日通知される内容による。

【枠数】

男子:500m(2)、1000m(2)、1500m(2)、3000m リレー(1)

女子:500m(2)、1000m(2)、1500m(2)、3000m リレー(1)

~~男女混合:男女混合 2000m リレー(1)~~

【選考基準】

対象選手は、2003 年 7 月 1 日から 2007 年 6 月 30 日までに生まれた者 (ISU 一般規定 108 条 2 項) とする。

対象競技会:

- ・ 第 33 回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会 (長野県南佐久郡南牧村、2022 年 10 月 8~9 日)
- ・ 第 42 回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会 (長野県南佐久郡南牧村、2022 年 12 月 10~11 日)

男女最大各 4 名の正選手及び各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象選手の中で、ワールドカップ第 3 戦~第 4 戦の日本代表となった者 (補欠は含まない)のうち、世界ジュニアショートトラック選手権大会へ参加を希望する場合は、男女各 1 名を日本代表選手として内定する。なお、当該選手は第 42 回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会 (以下「全日本ジュニア選手権」という)への参加を免除する。
- (2) 全日本ジュニア選手権において、各距離で第 1 位の者を選考する。次に、各距離で第 2 位の者の中から全日本ジュニア選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から全日本ジュニア選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (3) 上記(1)~(2)で選考された者を除き、(2)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。
- (4) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

【特記事項】

- ・ 世界ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会の日本代表になった選手は、第 45 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会には参加できない。

5. ワールドカップ第 5 戦~第 6 戦

【開催場所、期間】

第 5 戦:ドイツ(ドレスデン)、2023 年 2 月 3~5 日

第 6 戦:オランダ(ドルドレヒト)、2023 年 2 月 10~12 日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各 5 名(合計最大 10 名)

【枠数】

男子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、5000m リレー(1)

女子:500m(3)、1000m(3)、1500m(3)、3000m リレー(1)

男女混合:男女混合 2000m リレー(1)

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第 33 回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2022 年 10 月 8～9 日)
- ・ 第 45 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2023 年 1 月 21～22 日)

男女最大各 5 名の正選手及び最大各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 第 33 回全日本ショートトラック距離別選手権において各距離の第 1 位になった選手で、FISU ワールドユニバーシティーゲームズ又は世界ジュニア選手権に参加した者を当該国際競技会の日本代表選手として内定する。
- (2) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。ただし、以下の(3)～(4)において選考される者より各距離の順位が上位であった者が派遣標準記録以内で滑走していなかった場合は、対象競技会終了から 1 週間以内に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。
- (3) 第 45 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会(以下「全日本選手権」という)の 500m、1000m、1500m の 3 距離において、各距離で第 1 位の者の中から全日本選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 2 位の者の中から全日本選手権の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(2)の中から派遣可能人数を満たすまで、同様の方法で順位を繰り下げて選考する。
- (4) 上記(2)の中から、(1)および(3)で選考された者を除き、(3)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。
- (5) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

6. 世界ショートトラック選手権大会

【開催場所、期間】

韓国(ソウル)、2023 年 3 月 10～12 日

【選考方針】

日本代表選手団として十分な活躍が期待できる選手の中から、対象競技会の結果に基づいて選考する。

【派遣可能人数】

男女最大各 5 名(合計最大 10 名)

※ISU より、後日通知される内容による。

※リレー出場権はワールドカップでの最終ランキングにより決定される(この出場権を得た場合、男女それぞれ最大 5 名の派遣が可能となる)。

【枠数】

男子:500m(1)、1000m(1)、1500m(1)

女子:500m(1)、1000m(1)、1500m(1)

※リレー種目の枠は、ワールドカップでの最終ランキングにより決定される。

【選考基準】

対象競技会:

- ・ 第 45 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会(長野県南佐久郡南牧村、2022 年 1 月 21～22 日)

男女最大各 5 名の正選手及び各 3 名の補欠選手を以下の手順で選考する。

- (1) 対象競技会に先立ち実施するショートトラック強化部主催のタイムトライアルにおいて、当該年度の派遣標準記録(後述)以内で滑走した選手を選考対象とする。ただし、以下の(2)～(5)において選考される者より各距離の順位が上位であった者が派遣標準記録以内で滑走していなかった場合は、対象競技会終了から 1 週間以内に追加のタイムトライアルを実施し、基準を満たした場合は選考対象に含める。
- (2) 対象競技会終了時点ではリレー種目の出場枠獲得の有無が決定していないため、まず出場枠が確定している男女各 1 名を選考し、リレー種目の獲得状況に従って、(4)～(6)の方法で残りの正選手及び補欠選手を選考する。
- (3) 最初の男女各 1 名については、対象競技会の 500m、1000m、1500m の 3 距離において、各距離で第 1 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を選考する。
- (4) 男子又は女子リレーの出場枠を獲得できた場合、男子又は女子それぞれ最大 5 名の派遣選手は、まず、対象競技会の 500m、1000m、1500m の 3 距離において、(3)で選考された 1 名を除き、各距離で第 1 位の者を選考する。次に、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 3 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。以下、上記(1)の中から派遣可能人数を満たすまで、順位を繰り下げて選考する。
- (5) 男子又は女子リレーの出場枠を獲得できず、男女混合リレーの出場枠を獲得できた場合、男子又は女子それぞれ 2 名の派遣選手は、対象競技会の 500m、1000m、1500m の 3 距離において、(2)で選考された 1 名を除き、各距離で第 1 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。ここまでで派遣可能人数を満たさない場合は、各距離で第 2 位の者の中から対象競技会の 500m におけるベストタイムが上位の者を優先して選考する。
- (6) 上記(1)の中から、(2)～(5)で選考された者を除き、(4)と同様の方法で上位から男女各 3 名を補欠として選考する。
- (7) 上記の選考基準で判断できない場合は、強化部委員会の協議によって選考する。

2022/2023 ショートトラック派遣標準記録

(公財)日本スケート連盟

ショートトラック強化部

	女子	男子
1000m T.T.	1.32,565	1.27,008

※ 適用対象となる国際競技会は、2022/2023 シーズンの世界ショートトラック選手権大会、ワールドカップ第 1 戦～第 6 戦、四大陸ショートトラック選手権大会とする。

※ 上記派遣標準記録は、以下に示す 6 回のショートトラック強化部主催タイムトライアルで記録される必要がある。いずれかの回で標準記録以内のタイムで滑走すれば、条件を満たすものとする。タイムトライアルの実施要項は、別途ショートトラック強化メーリングリストを通じて配信する。

- ・ 2022 年 10 月 2 日(日)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター
- ・ 2022 年 10 月 4 日(火)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター
- ・ 2022 年 10 月 5 日(水)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター
- ・ 2023 年 1 月 15 日(日)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター
- ・ 2023 年 1 月 17 日(火)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター
- ・ 2023 年 1 月 18 日(水)長野県南佐久郡南牧村、帝産アイススケートレーニングセンター

※ 適用対象となる国際競技会の選考において、対象競技会前に派遣標準記録以内で滑走していない者が、選考対象者よりも上位の結果だった場合には、直近の対象競技会終了後 1 週間以内に追加のタイムトライアルを実施する。その場合の実施要項は、別途ショートトラック強化メーリングリストを通じて配信する。

※ 本派遣標準記録は、2018/2019 シーズンから 2021/2022 シーズンのワールドカップの各大会において、男女それぞれの 1000m 予選の各組における第 2 位のタイムの平均値とした。ただし、カルガリー及びソルトレークシティーでのレース、転倒や失格等によって著しくタイムが遅かったレース(各大会の平均タイムから 2SD 以上離れているもの)は除外した。